

本学の保育所実習の実施に関する第2次調査
—保育所実習に係る実施期間の類型とその学習効果に関する学生の意識調査—

佐野 友恵*¹ 森本恵美子*² 浅野 俊道*³ 杉本 佳隆*⁴

**A Second Survey on Two Types of Student Training
Programs at Childcare Facilities
Student Comments on their Results**

Tomoe Sano*¹ Emiko Morimoto*² Shundo Asano*³ Yoshitaka Sugimoto*⁴

Abstract

The Early Childhood Education Department has employed two types of training programs at childcare facilities: a continuous four-week program and one of two separate two-week periods. We refer the former as “the four-week program” and the latter as “the two-week program”.

For 29 years, until 2005, only the four-week program was offered, but because of a requirement for a 15 week college semester, both programs have been offered since 2005 with the four-week program due to be phased out in 2007.

In 2005 a survey was carried out on the four-week program. The current study examines both programs. Results were as follows:

- 1) Students in the two-week program found the second two-week period more pleasant than the first.
- 2) Student health was not affected by the type of program.
- 3) The sense of fulfillment from the training was related to understanding of children and the nature of the work, and was unaffected by the type of program.
- 4) Students became aware of their aptitude for caregiver work irrespective of program type.
- 5) Students in the two-week program preferred it because they had time to solve problems in the interval between periods of training.
- 6) Students in the four-week program preferred it because they were able to train slowly and carefully and gain confidence during the longer continuous period.

* 1 さの ともえ：大阪国際大学短期大学部講師 (2007.10.1 受理)

* 2 もりもと えみこ：大阪国際大学短期大学部教授

* 3 あさの しゅんどう：大阪国際大学短期大学部教授

* 4 すぎもと よしたか：大阪国際大学短期大学部教授

キーワード

連続して4週間の保育所実習、2週間ずつの保育所実習 実習の学習効果、実習期間の類型

1 調査目的

保育者に係わる免許・資格を取得するためには所定の科目を履修する必要がある、その中において学外実習はとりわけ学生にとって重要な意味を持つ科目である。学生は実習を通してそれまで大学で学んできた知識や技能を体験的に理解し、同時に自らの保育者としての適性の確認や学習課題を明確化することができるからである。

本学幼児保育学科保育コースでは、幼稚園教諭2種免許状および保育士資格の取得に係る教育課程を用意しており、2年間の教育課程において幼稚園教育実習を合計4週間、保育所実習を合計4週間、保育所以外の児童福祉施設での実習を実質10日間実施している。

免許・資格に係る実習の必要取得単位数等は教員免許法や厚生労働省告示に規定されているものの、実習をいつどのような形で実施するのかということは、ある程度各養成校に委ねられている。そのため、各養成校の教育理念や教育課程の中での実習の位置づけ、学年歴等との関係により多様な実習の実施類型がみられる。

本学では、厚生労働省告示第198号により4週間の保育所実習の実施が規定された平成14年度から平成16年度入学生に対して、「1回生時に連続して4週間実施する保育所実習」（以下、「連続して4週間の保育所実習」という）を実施してきた。本調査グループでは、「本学の保育所実習の実施に関する実態調査（Ⅰ）—連続して4週間の保育所実習の保育所実習の学習効果に関する学生の意識調査—」（佐野友恵 森本恵美子 浅野俊道2005、以下、「前回の第1次調査」という）において、「連続して4週間の保育所実習」を経験した平成15年度入学生に対して、「連続して4週間の保育所実習」の実施に関する意識調査を実施し、その学習効果を確認した。

その後、本学では、大学を取り巻く社会状況の変化に対応するために実習期間の実施類型について検討し、平成17年度入学生より、「1回生時、2回生時に渡り2週間ずつ合計4週間実施する保育所実習」（以下、「2週間ずつの保育所実習」という）を導入することとなった。しかし、平成17年度は実習の分割実施の移行期間であり、一部の学生は従前の「連続して4週間の保育所実習」を、大半の学生は「2週間ずつの保育所実習」を受けることとなった。なお、この学生達に対する幼稚園教育実習に関しては連続して4週間の実習を従前通りに実施した。

そこで今回の本学の保育所実習の実施に関する第2次調査では、従来採用してきた「連続して4週間の保育所実習」と、新たに導入した「2週間ずつの保育所実習」との2つの実施期間の類型とその学習効果に関する学生の意識を明らかにすることを目的としている。

2 調査方法

2-1 実施方法

本学幼児保育学科保育コースの平成18年度卒業生に対して無記名回答方式による悉皆調査を実施した。回答者数は対象学生142名中141名（回収率99.3%）である。

2-2 実施時期

平成19年2月8日に実施した。なお、調査用紙および単純集計結果は本文末尾に掲載した。

3 学生に対するアンケート調査結果とその考察

3-1 調査対象学生の受講した保育所実習の実施期間の類型

今回の調査における保育所実習の実施期間の類型は、「2週間ずつの保育所実習」および「連続して4週間の保育所実習」である。「2週間ずつの保育所実習」を受けた学生は125名(87.2%)、「連続して4週間の保育所実習」を受けたものは16名(12.8%)であった。

3-1-1 「2週間ずつの保育所実習」の1回生時における学生の苦楽感

図1は、実施期間の類型別に学生の苦楽感を示したものである。「2週間ずつの保育所実習」の1回生時における学生の「苦楽感」の変化について問うた問1-2の結果によると、2週間の実施期間の「最初から最後まで楽しかった」と感じた学生は27.2%であり、実習開始当初は辛かったが「後半になると楽しかった」と感じた学生は42.4%であった。このように、最終的に実習を楽しく感じたグループは合計69.6%の多数に達している。これに対し、実習開始当初はともかく実習「後半になると辛かった」と感じた学生は7.2%であり、また、実習を通して辛いと感じていた「最後まで辛かった」学生も14.4%であった。このように最終的に実習を辛く感じた学生は合計21.6%であった。概して、1回生時における「2週間ずつの保育所実習」は実習を受けた学生にとって楽しいものであったといえる。

実習の進行に伴う「苦楽感」の変化については実習を楽しく感じたグループと実習を辛く感じたグループとで相違している。実習を楽しく感じたグループは実習が進行し実習に慣れてくるに伴い実習の楽しさが増大する傾向にあった（「後半になると楽しかった」42.4%＞「最後まで楽しかった」27.2%）。それに対し、実習を辛く感じたグループの場合、実習中、終始一貫して実習の辛さを感じている傾向にあった（「最後まで辛かった」14.4%＞「後半になると辛かった」7.2%）。

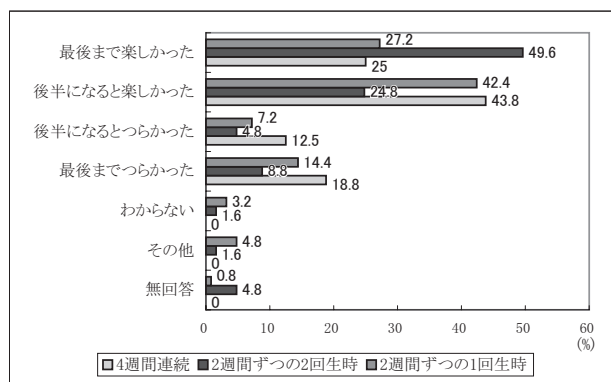


図1 保育所実習の実施期間の類型と実習の苦楽感

3-1-2 「2週間ずつの保育所実習」の2回生時における学生の苦楽感

「2週間ずつの保育所実習」の2回生時における学生の「苦楽感」の変化について問うた問1-3の結果によると、2週間の実施期間の最初から「最後まで楽しかった」と感じた学生は約半数の49.6%に達し、実習開始当初は辛かったが「後半になると楽しかった」と感じた学生は24.8%であった。いずれにせよ、最終的に実習を楽しく感じた学生は合計で74.4%の多数に達している。一方、実習開始当初はともかく実習「後半になると辛かった」と感じた学生は4.8%、また、実習を通して「最後まで辛かった」と感じていた学生は8.8%であった。最終的に実習を辛く感じた学生は合計13.6%であった。2回生時における「2週間ずつの保育所実習」も実習を受けた学生にとって楽しいものであったといえる。

これらの結果から「2週間ずつの保育所実習」は1回生時、2回生時を問わず実習を受けた学生にとって一般的に楽しいものであったといえる。但し、1回生時に「最後まで楽しかった」「後半になると楽しかった」と回答した学生の合計は69.6%であったのに対し、2回生時に「最後まで楽しかった」「後半になると楽しかった」と回答した学生の合計は74.4%に増加している。一方、「最後まで辛かった」「後半になると辛かった」と回答した学生の合計は1回生時に21.6%であったのに対し、2回生時には13.6%に減少している。2回生時の「2週間ずつの保育所実習」は1回生時の「2週間ずつの保育所実習」の経験を踏まえ、より楽しいものへ変化する傾向が認められる。

2回生時の保育所実習の進行に伴う苦楽感の変化については、1回生時の結果(図1)とは逆の結果になり、実習を楽しく感じたグループは実習の最初から最後まで実習を楽しく感じる傾向にあった(「最後まで楽しかった」49.6% > 「後半になると楽しかった」24.8%)。実習を辛く感じたグループの場合は、一回生時と同じ結果となり、終始一貫して実習の辛さを感じている傾向にあった(「最後まで辛かった」8.8% > 「後半になると辛かった」4.8%)。

表1は「2週間ずつの保育所実習」の苦楽の変化について1回生時、2回生時をクロスさせた結果である。1回生時に「最後まで楽しかった」と回答した学生は、2回生時にも「最後まで楽しかった」傾向にあった(67.6%)。また、1回生時に「後半になると楽しかった」と回答した学生は、2回生時にはその多くが「最後まで楽しかった」(54.9%)に変化した。一方、1回生時と同じく「後半になると楽しかった」と答えたケースも29.4%あった。一方、1回生時に「後半になると辛かった」と回答した学生は2回生時には「最後まで楽しかった」(44.4%)、「後半になると楽しかった」(44.4%)と回答し、実習が辛いものから楽しいものへシフトしている傾向が示された。また、1回生時に「最後まで辛かった」と回答した学生も2回生時になると「最後まで楽しかった」「後半になると楽しかった」と回答する者が64.7%に達し、実習が辛いものから楽しいものへシフトしている傾向が示されていた。以上のように、表1のクロス分析の結果からも、2回生時の「2週間ずつの保育所実習」は1回生時の「2週間ずつの保育所実習」の経験を踏まえ、より楽しいものへ変化する傾向にあることが示されている。

本学の保育所実習の実施に関する第2次調査

表1 2週間ずつの保育実習の1回生時と2回生時の苦楽感

		2回生時の苦楽感					合計
		初めから最後まで楽しかった	後半になると楽しかった	後半になるとつらかった	初めから最後までつらかった	わからない・その他	
1回生時の苦楽感	初めから最後まで楽しかった	23 (67.6%)	3 (8.8%)	3 (8.8%)	3 (8.8%)	2 (6.0%)	34 (100%)
	後半になると楽しかった	28 (54.9%)	15 (29.4%)	1 (2.0%)	5 (9.8%)	2 (3.9%)	51 (100%)
	後半になるとつらかった	4 (44.4%)	4 (44.4%)	1 (11.1%)	0 (0%)	0 (0%)	9 (100%)
	初めから最後までつらかった	4 (23.5%)	7 (41.2%)	1 (5.9%)	3 (17.6%)	2 (11.8%)	17 (100%)
	わからない・その他	3 (42.9%)	1 (14.2%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (42.9%)	7 (100%)

3-1-3 「連続して4週間の保育所実習」における学生の苦楽感

「連続して4週間の保育所実習」における学生の「苦楽感」の変化について問うた問1-4の結果によると、4週間の実施期間の最初から「最後まで楽しかった」と感じた学生は25.0%であり、実習開始当初は辛かったが「後半になると楽しかった」と感じた学生は43.8%であった。このように、最終的に実習を楽しく感じた学生は合計68.8%の多数に達している。これに対し、実習開始当初はともかく実習後半になると辛く感じた学生は12.5%であり、また、実習を通して辛いと感じていた学生も18.8%であった。最終的に実習を辛く感じた学生は合計31.3%であった。概して、1回生時における「連続して4週間の保育所実習」は、1回生時の「2週間ずつの保育所実習」、2回生時の「2週間ずつの保育所実習」と同様に学生にとって楽しいものであったといえる。

ただし、実習後半になると辛く感じた学生と実習を通して辛いと感じていた学生の合計は上述の通り合計31.3%で、1回生時の「2週間ずつの保育所実習」の場合(21.6%)、2回生時の「2週間ずつの保育所実習」の場合(13.6%)を明らかに上回っていた。この結果からは1回生時における「連続して4週間の保育所実習」では、実習が辛い状況に陥った場合、その状況の改善が比較的困難であったことが示唆される。しかし、本調査結果を「前回の第1次調査」と比較すると、前回調査では最終的に実習を辛く感じたグループの合計は22.9%であった。このことから上記の結果は本調査において「連続して4週間の保育所実習」受講者数が少数であったことに起因しているのかもしれない。

実習の進行に伴う苦楽感の変化については最終的に実習を楽しく感じたグループと最終的に実習を辛く感じたグループとで相違している。実習を楽しく感じたグループは実習が進行し実習に慣れてくるに伴い実習の楽しさが増大する傾向にあった(「後半になると楽しかった」43.8% > 「最後まで楽しかった」25.0%)。それに対し、実習を辛く感じたグループの場合、どちらかといえば実習中、終始一貫して実習の辛さを感じている傾向にあった(「最後まで辛かった」18.8% > 「後半になると辛かった」12.5%)。

1 回生時の「連続して4週間の保育所実習」の苦楽感のパターンは、2 回生時の「2 週間ずつの保育所実習」のパターン（図1）とは特に最終的に実習を楽しく感じたグループにおいて様相を異にしていたが、1 回生時の「2 週間ずつの保育所実習」のパターン（図1）とは酷似していた。このことから1 回生時の「連続して4週間の保育所実習」の苦楽感、1 回生時の「2 週間ずつの保育所実習」とほぼ同様の傾向が認められる。

3-2 保育所実習の実施期間の類型と実習中の健康管理

図2は、実習中の「健康管理」について問うた問2の結果である。図2によれば、「特別に健康の維持が難しくなかった」は44.7%であるのに対し、「2 週間ずつの実習だったが健康の維持が難しかった」（33.3%）と「連続して4週間の保育所実習は健康の維持が難しかった」（8.5%）の合計は41.8%であった。今回の調査結果では、実習中の「健康管理」については困難であった場合と困難でなかった場合とほぼ同数であった。

保育所実習の実施期間の類型と実習中の「健康管理」についてのクロス分析の結果、「2 週間ずつの保育所実習」の場合、「特別に健康の維持が難しくなかった」のは59名（47.6%）であるのに対し、「健康の維持が難しかった」のは46名（37.1%）であった。一方、「連続して4週間の保育所実習」の場合、「特別に健康の維持が難しくなかった」のは4名（25.0%）であるのに対し、「健康の維持が難しかった」のは12名（75.0%）であり、実習が1ヶ月の長期に渡る場合、「健康管理」が困難になるケースが増大するようである。

この結果を考慮すると、図2において実習中の「健康管理」についての困難の有無がほぼ同数の結果であったのは、今回の調査では「連続して4週間の保育所実習」が少人数であったことに起因するとも考えられる。ただし、「前回の第1次調査」の結果では実習中の「健康管理」についての困難の有無がほぼ同数の結果であった（「健康の維持が難しくなかった」が27.1%、「健康の維持が難しかった」が26.3%）。

表2は1回生時の「2 週間ずつの保育所実習」における実習中の「健康管理」と「苦楽感」のクロス分析の結果である。この結果によれば、「特別に健康の維持が難しくなかった」場合、「実習が最後まで楽しかった」が17名（29.3%）、「後半になると楽しかった」が27名（46.6%）で、合計44名（75.9%）にも達している。しかし、「健康の維持が難しかった」場合においても、「実習が最後まで楽しかった」が12名（26.1%）、「後半になると楽しかった」が19名（41.3%）で、合計31名（67.4%）となり過半数をかなり上回っている。このことから実習中の「健康管理」の成否は必ずしも実習の苦楽感に直結するものではないようである。

この傾向は2 回生時の「2 週間ずつの保育所実習」でより顕著になる。表3は2 回生時の「2 週間ずつの保育所実習」における実習中の「健康管理」と「苦楽感」のクロス分析の結果である。この結果によれば、「特別に健康の維持が難しくなかった」場合、「実習が最後まで楽しかった」が24名（41.4%）、「後半になると楽しかった」が19名（32.8%）で、合計43名（74.2%）にも達している。「健康の維持が難しかった」場合においても、「実習が最後まで楽しかったが」24名（52.2%）、「後半になると楽しかった」が10名（21.8%）で、その合計は34名（74.0%）となり比率においては「健康の維持が難しくなかった」場合と遜色ない。以上のように表2・表3のクロス分析の結果から、実習中の「健康管理」

本学の保育所実習の実施に関する第2次調査

の成否は必ずしも実習の苦楽感に直結するものではないようである。

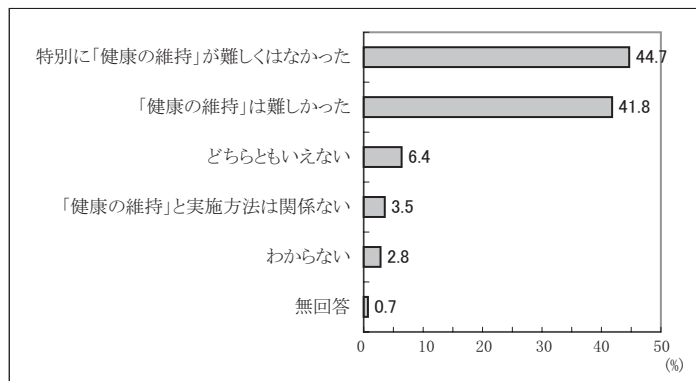


図2 保育所実習中の健康管理

表2 実習中の「健康管理」と2週間ずつの保育所実習の1回生時の苦楽感

		2週間ずつの保育所実習の1回生時の苦楽感					合計
		初めから最後まで楽しかった	後半になると楽しかった	後半になるとつらかった	初めから最後までつらかった	わからない・その他	
実習中の「健康管理」	特別に「健康の維持」が難しくはなかった	17 (29.3%)	27 (46.6%)	4 (6.9%)	7 (12.1%)	3 (5.1%)	58 (100%)
	「健康の維持」は難しかった	12 (26.1%)	19 (41.3%)	4 (8.7%)	7 (15.2%)	2 (4.4%)	46 (100%)
	どちらともいえない	4 (44.5%)	3 (33.3%)	0 (0%)	1 (11.1%)	1 (11.1%)	9 (100%)
	「健康の維持」と実施方法は関係ない	1 (25.0%)	0 (0%)	1 (25.0%)	2 (50.0%)	0 (0%)	4 (100%)
	わからない・その他	0 (0%)	3 (60%)	0 (0%)	1 (20.0%)	0 (0%)	5 (100%)

表3 実習中の「健康管理」と2週間ずつの保育所実習の2回生時の苦楽感

		2週間ずつの保育所実習の2回生時の苦楽感					合計
		初めから最後まで楽しかった	後半になると楽しかった	後半になるとつらかった	初めから最後までつらかった	わからない・その他	
実習中の「健康管理」	特別に「健康の維持」が難しくはなかった	24 (41.4%)	19 (32.8%)	3 (5.2%)	6 (10.3%)	6 (10.3%)	58 (100%)
	「健康の維持」は難しかった	24 (58.5%)	10 (24.4%)	3 (7.3%)	3 (7.3%)	1 (2.4%)	41 (100%)
	どちらともいえない	1 (11.1%)	0 (0%)	1 (11.1%)	1 (11.1%)	0 (0%)	9 (100%)
	「健康の維持」と実施期間とは関係ない	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (25.0%)	0 (0%)	4 (100%)
	わからない・その他	0 (0%)	0 (0%)	1 (20.0%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (100%)

3-3 保育所実習の実施期間の類型と大学の授業

図3は保育所実習の実施期間の類型と大学の授業について問うた問3の結果である。図3の結果によれば「2週間ずつに分けた方が充実する」が65.2%、「どちらともいえない」が19.1%、「連続して4週間の方が充実する」が9.9%となっている。そもそも「連続して4週間の保育所実習」を受けた比率が12.8%と少数のためこの結果を安易に解釈できないが、図3の結果は明白で、大半の学生は「連続して4週間の保育所実習」より「2週間ずつの保育所実習」の方が充実すると考えている。

「2週間ずつの保育所実習」の方が充実するという考えの根拠を探るべく、問4の保育所実習と「子どもの年齢別発達段階」の理解、問5の実習時における「子どもの理解と親和」、問6の実習を通しての「今後の学習課題の発見」、問7の実習を通しての「保育士の仕事内容の理解」についての以下の結果に考察を加える。

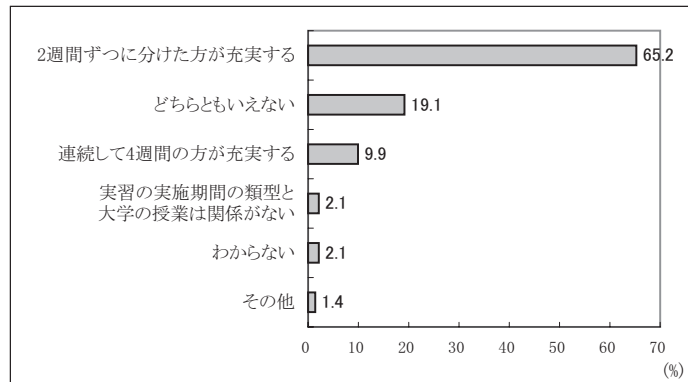


図3 保育所実習の実施期間の類型と大学の授業

3-4 子どもの年齢別発達段階の理解

図4は保育所実習と「子どもの年齢別発達段階」の理解について問うた問4の結果である。この結果によれば「2週間ずつの保育所実習の方が子どもの年齢別発達段階をよく理解できる」が75.2%、「連続して4週間の保育所実習の方がよく理解できる」が18.4%となっている。大半の学生は「連続して4週間の保育所実習」より「2週間ずつの保育所実習の方が子どもの年齢別発達段階をよく理解できる」と考えている。

表4は図3（保育所実習の実施期間の類型と大学の授業）と図4（子どもの年齢別発達段階の理解）とのクロス分析の結果である。「2週間ずつの保育所実習の方が充実する」と回答した学生では「2週間ずつの保育所実習の方が子どもの年齢別発達段階をよく理解できる」と回答した者が80名（87.0%）に達している。一方、「連続して4週間の保育所実習の方が充実する」と回答した学生では「連続して4週間の保育所実習の方が子どもの年齢別発達段階をよく理解できる」と回答した者が10名（71.4%）であり、「2週間ずつの保育所実習の方が子どもの年齢別発達段階をよく理解できる」と回答した者3名（21.4%）を圧倒的に上回っている。このクロス分析の結果からは、保育所実習の実施期

本学の保育所実習の実施に関する第2次調査

間の類型にかかわらず学生は子どもの年齢別発達段階をある程度以上理解できる時に実習の充実を感じているようである。このように、保育所実習の実施期間の類型と大学の授業に係る実習の充実度の判断が実習中における子どもの年齢別発達段階の理解度に大いに関係している。

3-5 子どもの理解と親和

図5は実習時における「子どもの理解と親和」について問うた問5の結果である。これによれば「十分に子どもを理解し親しくなれた」が27.0%、「ある程度子どもを理解し親しくなれた」が70.2%となり、実習中の「子どもの理解と親和」については圧倒的多数の学生が満足できているようである。この傾向は前回の第1次調査結果と同じである。このことから実習時における「子どもの理解と親和」の達成については、「連続して4週間の保育所実習」と「2週間ずつの保育所実習」とは大差がないようである。

表5は図3（保育所実習の実施期間の類型と大学の授業）と図5（実習時における子どもの理解と親和）とのクロス分析の結果である。「2週間ずつの保育所実習の方が充実する」と回答した学生では「十分に子どもを理解し親しくなれた」が31名(33.7%)、「ある程度子どもを理解し親しくなれた」が60名(65.2%)、合計91名(98.9%)となり、ほぼ全員がある程度以上の「子どもの理解と親和」を達成している。「連続して4週間の保育所実習の方が充実する」と回答した学生の場合も同じ傾向で、「十分に子どもを理解し親しくなれた」学生と「ある程度子どもを理解し親しくなれた」学生との合計が13名(92.9%)に達し、大半の学生がやはりある程度以上の「子どもの理解と親和」を達成している。このクロス分析の結果からは、保育所実習の実施期間の類型にかかわらず学生はある程度以上子どもを理解し親しくなれるときに実習の充実を感じているようである。表5は保育所実習の実施期間の類型と大学の授業に係る実習の充実度の判断が実習中の「子どもの理解と親和」の程度に大いに関係していることを示している。

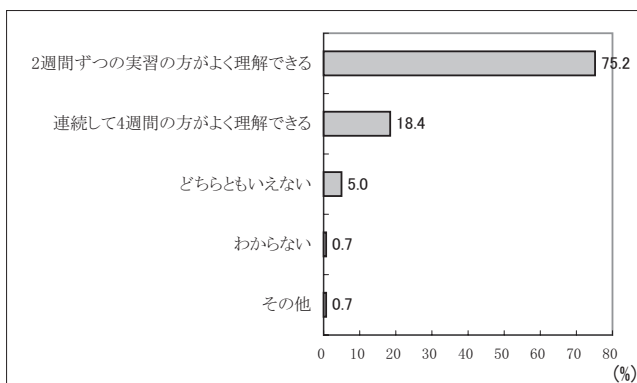


図4 子どもの年齢別発達課題の理解

表4 保育所実習の実施期間の類型と大学の授業と「子どもの年齢別発達段階」の理解

		「子どもの年齢別発達段階」の理解				合計
		2週間ずつの実習の方がよく理解できる	連続して4週間の方がよく理解できる	どちらともいえない	わからない・その他	
実習の実施期間の類型と大学の授業	2週間ずつの実習の方が充実する	80 (87.0%)	9 (9.8%)	2 (2.2%)	1 (1.0%)	92 (100%)
	連続して4週間の方が充実する	3 (21.4%)	10 (71.4%)	1 (7.2%)	0 (0%)	14 (100%)
	どちらともいえない	19 (70.4%)	4 (14.8%)	4 (14.8%)	0 (0%)	27 (100%)
	実施方法と学校の授業は関係ない	3 (100.0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (100%)
	わからない・その他	1 (20.0%)	3 (60.0%)	0 (0%)	1 (20.0%)	5 (100%)

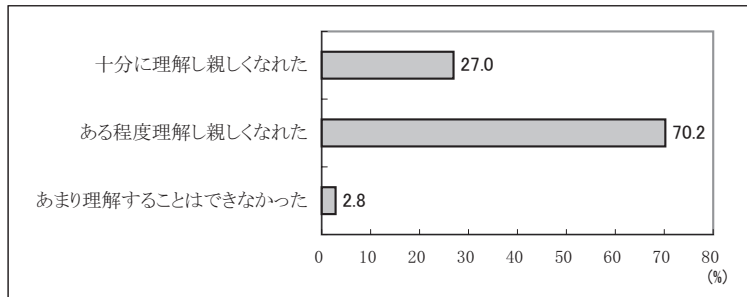


図5 子どもの理解と親和

表5 保育所実習の実施期間の類型と大学の授業と子どもの理解と親和

		子どもを理解し親しくなれた			合計
		十分に理解し親しくなれた	ある程度理解し親しくなれた	あまり理解することはできなかった	
実習の実施期間の類型と大学の授業	2週間ずつの実習の方が充実する	31 (33.7%)	60 (65.2%)	1 (1.1%)	92 (100%)
	連続して4週間の方が充実する	2 (14.3%)	11 (78.6%)	1 (7.1%)	14 (100%)
	どちらともいえない	3 (11.1%)	22 (81.5%)	2 (7.4%)	27 (100%)
	実施方法と学校の授業は関係ない	0 (0%)	3 (100.0%)	0 (0%)	3 (100%)
	わからない・その他	2 (40.0%)	3 (60.0%)	0 (0%)	5 (100%)

3-6 今後の学習課題の発見

図6は実習を通しての「今後の学習課題の発見」について問うた問6の結果である。これによれば「もっと勉強しなければと思うようになった」が60.3%、「何を勉強しなければいけないかがわかった」が31.9%で、その合計は92.2%となり、圧倒的多数の学生が実習を通して何らかの「今後の学習課題を発見」している。この傾向は、「前回の第1次調査」の結果と同様で、実習時における「今後の学習課題の発見」については「連続して4週間の保育所実習」と「2週間ずつの保育所実習」と大差がない。大学における保育士養成教育をより実りあるものにするためには、実習時における「今後の学習課題の発見」の観点から比較的早期での実習実施を検討することも必要となる。比較的早期での実習実施は学生自らが学習課題を早期に発見し、自発的且つ積極的に勉学に取り組む機会の提供につながるからである。

表6は図3（保育所実習の実施期間の種類と大学の授業）と図6（実習を通しての今後の学習課題の発見）とのクロス分析の結果である。「2週間ずつに分けた実習の方が充実する」と回答した学生では「もっと勉強しなければと思うようになった」が58名（63.0%）、「何を勉強しなければいけないかがわかった」が30名（32.6%）となり、この両者（88名、95.6%）ではほぼ全員の学生が実習を通して何らかの「今後の学習課題を発見」している。「連続して4週間の保育所実習の方が充実する」と回答した学生の場合も同じ傾向で、「もっと勉強しなければと思うようになった」が8名（57.1%）、「何を勉強しなければいけないかがわかった」が5名（35.7%）となり、この両者（13名、92.8%）で大半の学生が実習を通して何らかの「今後の学習課題を発見」している。保育所実習の実施期間の種類にかかわらず学生は実習を通して何らかの「今後の学習課題を発見」できる時に「実習の充実」を感じているようである。このように「実習の充実度」は実習中の「今後の学習課題の発見」に大いに関係している。

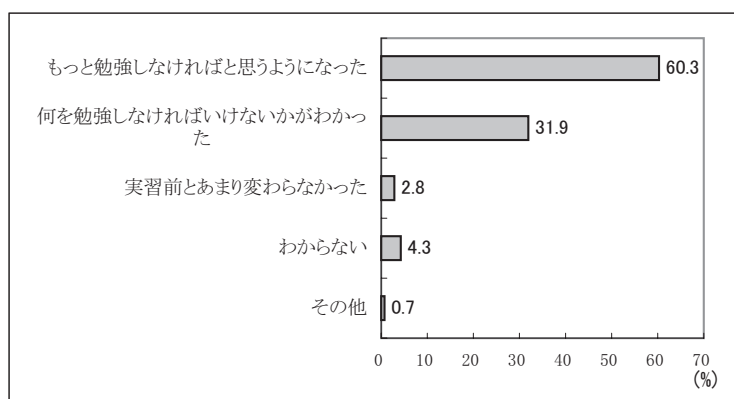


図6 今後の実習課題

表6 保育所実習の実施期間の類型と大学の授業と今後の実習課題

		今後の実習課題				合計
		もっと勉強しなければと思うようになった	何を勉強しなければいけないかわかった	実習前とあまり変わらなかった	わからない	
実習の実施期間の類型と大学の授業	2週間ずつの実習の方が充実する	58 (63.0%)	30 (32.6%)	1 (1.1%)	3 (3.3%)	92 (100%)
	連続して4週間の方が充実する	8 (57.1%)	5 (35.7%)	1 (7.2%)	0 (0%)	14 (100%)
	どちらともいえない	14 (51.9%)	9 (33.3%)	1 (3.7%)	3 (11.1%)	27 (100%)
	実施方法と学校の授業は関係ない	3 (100.0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (100%)
	わからない・その他	2 (40.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	5 (100%)

3-7 保育士の仕事内容の理解

図7は実習を通しての「保育士の仕事内容の理解」について問うた問7の結果である。これによれば「保育士の仕事内容をよく理解できた」が36.2%、「保育士の仕事内容を少しは理解できた」が62.4%、合計98.6%となり、実習を受けたほぼ全員が実習中に「保育士の仕事内容」をある程度は理解できたようである。この結果を、前回の第1次調査結果と比較すると、前回の結果では「保育士の仕事内容をよく理解できた」が43.2%、「保育士の仕事内容を少しは理解できた」が53.4%であり、合計96.6%である。「保育士の仕事内容をよく理解できた」という点に関しては、前回の第1次調査の方が7.0%上回っており、実習を通しての「保育士の仕事内容の理解」においては、「連続して4週間の保育所実習」の方が「2週間ずつの保育所実習」より多少とも優位である。

表7は図3（保育所実習の実施期間の類型と大学の授業）と図7（実習時における保育士の仕事内容の理解）とのクロス分析の結果である。「2週間ずつの保育所実習の方が充実する」と回答した学生では「保育士の仕事内容をよく理解できた」が35名（38.0%）、「仕事内容を少しは理解できた」が57名（62.0%）である。一方、「連続して4週間の保育所実習の方が充実する」と回答した学生の場合では、「保育士の仕事内容をよく理解できた」が4名（28.6%）、「仕事内容を少しは理解できた」が10名（71.4%）である。このように保育所実習の実施期間の類型にかかわらず、学生は実習を通して「保育士の仕事内容」を多少とも理解できる時に「実習の充実」を感じている。このように「実習の充実度」は実習中の「保育士の仕事内容の理解」に関係している。

本学の保育所実習の実施に関する第2次調査

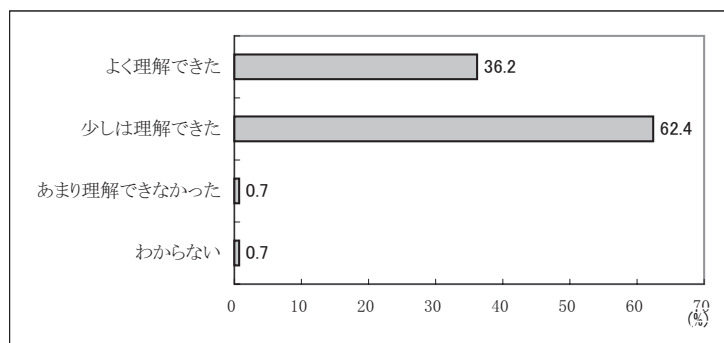


図7 保育士の仕事内容の理解

表7 保育所実習の実施期間の類型と大学の授業と保育士の仕事内容の理解

		保育士の仕事内容の理解				合計
		よく理解できた	少しは理解できた	あまり理解できなかった	わからない	
実習の実施期間の類型と大学の授業	2週間ずつの実習の方が充実する	35 (38.0%)	57 (62.0%)	0 (0%)	0 (0%)	92 (100%)
	連続して4週間の方が充実する	4 (28.6%)	10 (71.4%)	0 (0%)	0 (0%)	14 (100%)
	どちらともいえない	11 (40.7%)	14 (51.9%)	1 (3.7%)	1 (3.7%)	27 (100%)
	実施方法と学校の授業は関係ない	0 (0%)	3 (100.0%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (100%)
	わからない・その他	1 (20.0%)	4 (80.0%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (100%)

3-8 保育士への就職志向性

図8は保育所での実習経験を踏まえたうえで「保育士への就職志向性」について問うた問8の結果である。この結果によれば「保育士になりたいと思った」が39.7%、「保育士になりたいと思ったが自分には無理と思った」が40.4%となり、この両者の合計は80.1%に達している。この結果は、保育所での実習を経た時点で、保育士になる実現可能性の判断はともかく、学生の「保育士への就職志向性」が極めて高いことを示している。この結果を「前回の第1次調査」と比較すると、前回の結果では「保育士になりたいと思った」が46.6%、「保育士になりたいと思ったが自分には無理と思った」が43.2%となり、この両者の合計は89.8%に達しており、いずれも今回の結果を上回っている。「連続して4週間の保育所実習」を経た時点で、学生の「保育士への就職志向性」が極めて高いこと、また、「連続して4週間の保育所実習」によってむしろ「保育士への就職志向性」がより高くなる傾向にあることが示されている。いずれにせよ、実習経験を踏まえたうえでの「保育士への就職志向性」は極めて高いことがわかる。

これらの結果は同時に、保育所実習を実際に経験することにより学生が自己の「保育士としての資質・適性、保育士になる実現可能性」を改めて判断していることも示している。図8で「保育士になりたいと思った」と回答した39.7%の学生は自己の「保育士としての資質・適性、保育士になる実現可能性」を肯定的にとらえていることが示されている。その一方では「保育士になりたいと思ったが自分には無理と思った」と回答した学生が40.4%であり、前者をむしろ上回っている。この学生は一見、自己の「保育士としての資質・適性、保育士になる実現可能性」を否定的にとらえ「保育士への就職志向性」も消極的であるかのようにみえる。しかし、卒業後の進路と「保育士への就職志向性」とをクロスさせて分析した表8の結果によれば、「保育士になりたいと思ったが自分には無理と思った」と回答した学生の保育所への就職率は52.6%に達しており、「保育士になりたいと思った」と回答した学生の保育所への就職率51.8%をむしろ上回っている。「前回の第1次調査」でも、「保育士になりたいと思った」と回答した学生の保育所への就職率(43.6%)より、「保育士になりたいと思ったが自分には無理と思った」と回答した学生の方が保育所への就職率(52.8%)は高かった。こうして、「保育士になりたいと思ったが自分には無理と思った」と回答した学生においては、むしろ自己の「保育士への就職志向性」について問題意識を持って積極的にとらえ、実習を経て実感した自己の「保育士としての資質・適性、保育士になる実現可能性」を厳しくみつめ、今後の進路に悩んでいる姿が垣間見られる。

保育士に「向かないということがわかった」と回答した7.8%の学生は保育所での実際の実習経験を通して自己の「保育士としての資質・適性、保育士になる実現可能性」を冷静に判断し、自己の進路についてのとらえ直しができたのである。その結果、11名中の4名(36.4%)が一般企業、3名(27.3%)が幼稚園に就職を決めている。

保育士に「なりたくないと思った」と回答した5.0%の学生は保育所実習を経て「保育士への就職志向性」を喪失させている。これらの学生は実際の保育所での実習経験を経て、新たな自己の進路を探求している。その結果、7名中の3名(42.9%)が幼稚園に就職を決めている。

以上の結果を、「前回の第1次調査」の結果と比較すると、前回の結果では「保育士になりたいと思った」と回答した自己の「保育士としての資質・適性、保育士になる実現可能性」を肯定的にとらえている学生は46.6%で今回のデータを6.9%上回っていた。一方、「なりたくないと思った」が0.8%、「向かないということがわかった」が4.2%で、合計5.0%であり、自己の「保育士としての資質・適性、保育士になる実現可能性」を否定的にとらえていた学生は今回のデータの4割に満たなかった。この両調査結果の比較から「連続して4週間の保育所実習」が自己の「保育士としての資質・適性、保育士になる実現可能性」の否定的判断を肯定的方向に変化させるという可能性が示唆されている。

保育所実施期間の類型と図8(保育士への就職志向性)とのクロス分析の結果、「2週間ずつの保育所実習」を受けた学生では、「保育士になりたいと思った」と回答した、自己の「保育士としての資質・適性、保育士になる実現可能性」を肯定的にとらえている学生は49名39.2%であったのに対し、「連続して4週間の保育所実習」を受けた学生は7名

本学の保育所実習の実施に関する第2次調査

43.8%で4.6%上回っていた。また、「保育士になりたいと思ったが自分には無理と思った」という「保育士への就職志向性」を持っているものの自己の「保育士としての資質・適性、保育士になる実現可能性」については消極的な判断をしている学生は、「2週間ずつの保育所実習」を受けた学生では52名41.6%だったのに対し、「連続して4週間の保育所実習」を受けた学生では5名31.3%で10.3%減少した。

以上の結果から「保育士の就職志向性」における肯定感の保持・改善においては、「連続して4週間の保育所実習」の方が「2週間ずつの保育所実習」より多少とも優位である。また「連続して4週間の保育所実習」が自己の「保育士としての資質・適性、保育士になる実現可能性」の消極的・否定的判断を多少とも改善し、肯定的方向に変化する可能性が示唆される。

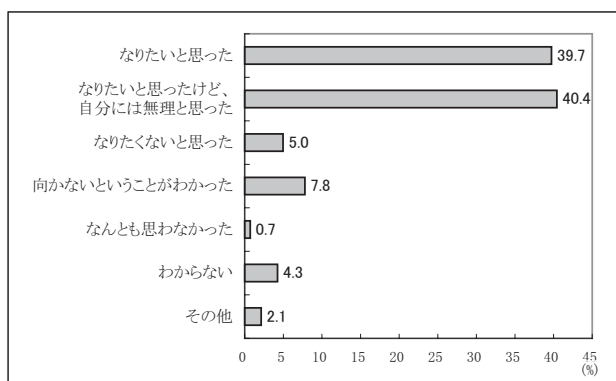


図8 保育士への就職志向性

表8 保育士への就職の志向性と卒業後の進路

	なりた と思った	なりたと思 たけど、自分 には無理と思 った	なりたく ないと思 った	向かないと いうことが わかった	なんとも 思わなか った	わから ない その他	合計
保育所	29 (51.8%)	30 (52.6%)	0 (0%)	3 (27.3%)	1 (100.0%)	4 (44.4%)	67 (47.5%)
幼稚園	14 (25.0%)	4 (7.0%)	3 (42.9%)	3 (27.3%)	0 (0%)	4 (44.4%)	28 (19.9%)
施設	1 (1.8%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (0.7%)
一般企業	1 (1.8%)	5 (8.8%)	1 (14.3%)	4 (36.4%)	0 (0%)	0 (0%)	11 (7.8%)
大学などへの進学	2 (3.6%)	1 (1.8%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (2.1%)
就職活動中	7 (12.5%)	14 (24.5%)	2 (28.5%)	1 (9.0%)	0 (0%)	1 (11.2%)	25 (17.8%)
就職しない	2 (3.6%)	1 (1.8%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (2.1%)
その他	0 (0%)	2 (3.5%)	1 (14.3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (2.1%)
合計	56 (100%)	57 (100%)	7 (100%)	11 (100%)	1 (100%)	9 (100%)	141 (100%)

3-9 保育所実習の実施期間の種類の選択

3-9-1 「連続して4週間の保育所実習」と「2週間ずつに分けて4週間の保育所実習」の選択

図9は今後の保育所実習では「連続して4週間の保育所実習」と「2週間ずつの保育所実習」のどちらの実施期間の種類を希望するかについて問うた問9-1の結果である。こ

の結果によれば「連続して4週間の保育所実習」を選択した学生が29.1%であったのに対して、「2週間ずつの保育所実習」を選択した学生は58.2%であった。この結果は「連続して4週間の保育所実習」を経験した学生についてのみ調査していた「前回の第1次調査」の結果とは明らかに相違している。すなわち、「2週間ずつの保育所実習」を選択した学生が26.3%であったのに対して、「連続して4週間の保育所実習」を選択した学生は52.5%であった。

この両調査の相違を明らかにするために今回の調査について「実施期間の種類」と「これから保育所実習を受けるとしたら」についてのクロス分析をした。「これから保育所実習を受けるとしたら」の質問に対して、「2週間ずつの保育所実習」を経験した学生が「2週間ずつの保育所実習」を選択したのが80名64.0%であり、「連続して4週間の保育所実習」を経験した学生が「連続して4週間の保育所実習」を選択したのが12名75.0%であった。このように、「これから保育所実習を受けるとしたら」の質問に対して、自己が受講・経験した「実施期間の種類」を選択する傾向がみられる。「実施期間の種類」にかかわらず学生は自己が受講・経験した「実施期間の種類」のメリットを認めており、自分が経験していない保育所実習の「実施期間の種類」を選択するまでには及ばなかった。ただし、「2週間ずつの保育所実習」を経験した学生が、もう一度「保育所実習を受けるとしたら」との質問に対して「連続して4週間の保育所実習」を選ぶ割合は29人23.2%に達していた。

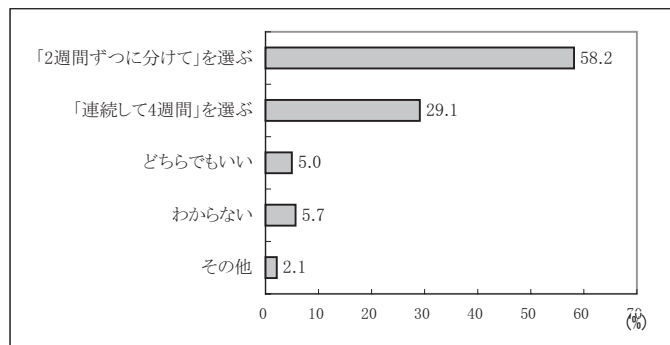


図9 保育所の実施期間の種類の選択

3-9-2 「連続して4週間の保育所実習」の選択理由

図10は問9-1で「連続して4週間の保育所実習」を選択した学生にその選択理由を問うた問9-2の結果である。その最大の選択理由として61.0%が「2週間ずつの保育所実習では実習に慣れた頃に終わってしまう」をあげている。これらの学生は実習の前半2週間で子どもや実習園に慣れ、それを後半の2週間で実習に活かせるという「連続して4週間の保育所実習」のメリットを強く感じている。それに次いで「じっくり実習ができる」、 「1回生時に実習園と合わない」と2回生時の実習が辛くなる」が31.7%で同率に並び、「実

本学の保育所実習の実施に関する第2次調査

習を4週間やり通して自信がつく」19.5%が後続する。これらの選択理由は、保育所実習に慣れてきた3週間目以降に実習が充実する可能性を示唆している。

既述の保育所実習の実施期間の類型と実習中の「健康管理」のクロス分析の結果に示されていたように、過半数の学生が「連続して4週間の保育所実習」の健康管理の困難さを訴えていたにもかかわらず「連続して4週間の保育所実習」のメリットを強く感じていることからこのことがわかる。表4、表5、表6、表7で示されていたように「連続して4週間の保育所実習」で得られる充実感、すなわち「子どもの発達段階の理解」、「子どもの理解と親和」、「今後の実習課題の発見」、「保育士の仕事内容の理解」に伴う充実感が「連続して4週間の保育所実習」を選択する主要因となっている。

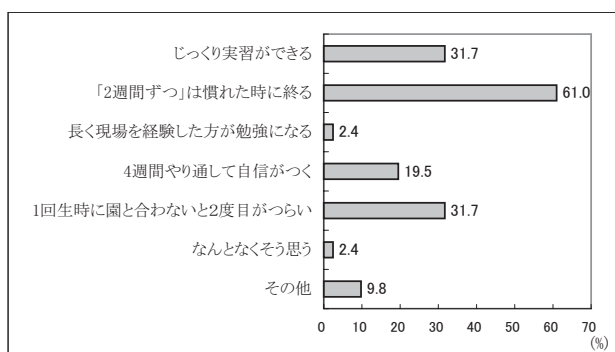


図10 4週間連続の保育実習の選択理由

3-9-3 「2週間ずつの保育所実習」の選択理由

図11は問9-1で「2週間ずつの保育所実習」を選択した学生にその選択理由を問うた問9-3の結果である。その最大の選択理由として75.6%が「気づいた課題を2回生時で取り組める」をあげている。これらの学生は、1回目と2回目の実習の間に大学での学習期間のある「2週間ずつの保育所実習」のメリットを強く感じている。すなわち、1回目の実習で気づいた課題や問題点を次回の実習までに改善・解決する可能性、また、この間の自己の成長を次回の実習で確認するチャンスを「2週間ずつの保育所実習」に期待している。26.8%の学生が「同じ園に行くので2度目の実習がやりやすい」を選択理由としてあげているが、暗黙のうちに実習を2回に分割するメリットを感じているからではないだろうか。また、36.6%の学生は「2週間ずつの保育所実習」を選択した理由として「連続して4週間は長すぎる」をあげている。また、17.1%の学生はほぼ同様の理由「2週間ずつの保育所実習の方が健康の維持がしやすい」を選択理由にあげている。これらの学生は4週間にわたる長期間の実習のデメリットを強く意識し、実習中での健康管理に不安を抱いている。

上述のように、「2週間ずつの保育所実習」の選択理由の最大のものは、「気づいた課題を2回生時で取り組める」であった。このことは、既述の表6の結果と一致している。す

なわち、「今後の実習課題の発見」の達成は、実習の充実感の獲得と深く関係している。このことを考慮すると、表4、表5、表7で示されていたように、「子どもの発達段階の理解」、「子どもの理解と親和」「保育士の仕事内容の理解」に伴う充実感が「2週間ずつの保育所実習」を選択する理由と考えられる。

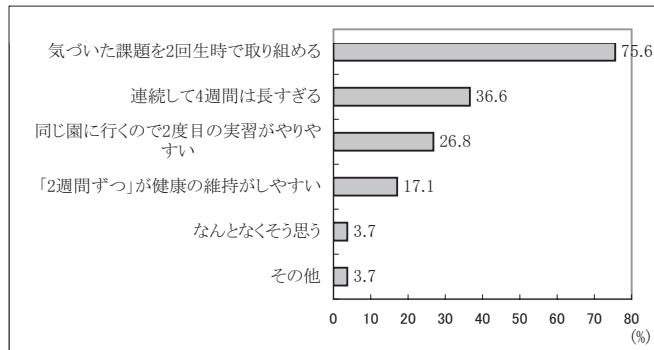


図11 2週間ずつの保育所実習の選択理由

3-10 連続して4週間の幼稚園教育実習

3-10-1 連続して4週間の幼稚園教育実習と苦楽感

調査対象学生は、2回生時に連続して4週間の幼稚園教育実習を経験している。今回の調査では、参考までに幼稚園教育実習の「苦楽感」と「健康管理」について問うている。

連続して4週間の幼稚園教育実習を受けた学生は、131名92.2%である。図12は4週間の幼稚園教育実習を受けた学生の苦楽感の変化について問うた問11の結果である。4週間の実施期間中「最初から最後まで楽しく実習できた」学生が40.9%でもっとも多く、「後半になると楽しかった」学生の35.6%を合計すると最終的に楽しく実習を終えた学生は76.5%に達している。概して、2回生時における連続して4週間の幼稚園教育実習は実習を受けた学生にとって楽しいものであったといえる。しかし、その一方で実習に辛さを感じていた学生も少なからずいた。実習開始当初はともかく実習後半になると辛く感じた学生は12.5%、実習を通して辛いと感じていた学生は18.8%であり、最終的に実習を辛く感じた学生は合計31.3%であった。これだけの比率の学生が辛く感じながら終えた事は無視できない事実である。

図12に示された連続して4週間の幼稚園教育実習の苦楽感のパターンをみると図1の2回生時の「2週間ずつの保育所実習」の苦楽感のパターンと似ている。その共通点は「後半になると実習が楽しくなった」比率よりも、「最初から最後まで実習が楽しかった」の方が上回っていることである。それに対し他の実習実施期間の種類、つまり1回生時の「2週間ずつの保育所実習」および「連続して4週間の保育所実習」ではいずれも「最初から最後まで実習が楽しかった」比率よりも、「後半になると実習が楽しくなった」の方が上回っており、異なる様相を呈していた。この事実は学生の実習体験の相違から説明できると思われる。すなわち、1回生時に初めて実習を受けた時は、どうしても実習当初は

本学の保育所実習の実施に関する第2次調査

不慣れによる戸惑い、緊張、不安等があり、最初から実習を楽しく感じる余裕はないと考えられる。2回生時に受ける実習ではそのような不安要素は相対的に減少し、そのことが「実習を最初から楽しく感じさせる」比率の増加につながったのであろう。

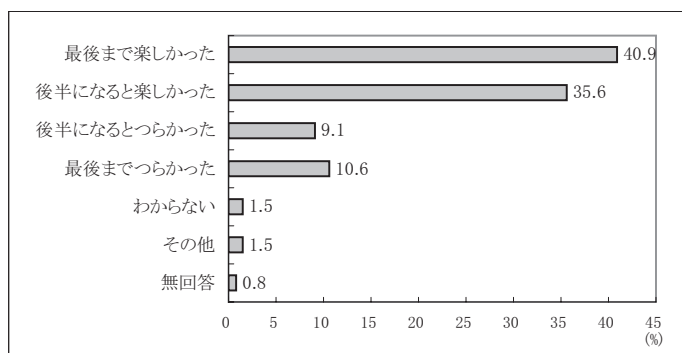


図12 4週間の幼稚園実習の苦楽感

3-10-2 連続して4週間の幼稚園教育実習と健康管理

図13は連続して4週間の幼稚園教育実習を受けた学生に実習中の健康の維持について問うた問12の結果である。「特別に健康の維持が難しくなかった」は43.2%であるのに対し、「連続して4週間の実習は長くて健康の維持が難しかった」が45.5%であった。今回の調査結果では、実習中の「健康管理」については困難であった場合と困難でなかった場合とほぼ同数であった。この結果は「保育所実習と実習中の健康の維持」について示された図2の全体的な結果（実施期間の種類にかかわらず「健康の維持が困難だったもの」を合計したもの）とほぼ一致している。また、既述のように「前回の第1次調査」の結果でも、実習中の「健康管理」についての困難の有無がほぼ同数の結果であった。

表9は「実習中の苦楽感」と「実習中の健康管理」についてのクロス分析の結果である。「特別に健康の維持が難しくなかった」場合、「最初から最後まで楽しかった」のは29名（51.8%）、「後半になると楽しかった」が18名（32.1%）、合計47名（83.9%）であり、実習を辛い状態で終えた合計8名（14.3%）を明らかに上回っていた。しかし、「実習が長くて健康の維持が難しかった」場合でも、「最初から最後まで楽しかった」のは19名（31.7%）、「後半になると楽しかった」が23名（38.3%）、合計42名（70.0%）に達しており、実習を辛い状態で終えた「最初から最後まで辛かった」の7名（11.7%）、「後半になると辛かった」の8名（13.3%）、合計15名（25.0%）を圧倒的に上回っていた。このことから連続して4週間の幼稚園教育実習中の「健康管理」の成否は必ずしも実習の苦楽感に直結するものではない。

この結果は、保育所実習中の「健康管理」と「苦楽感」の関係をクロス分析していた既述の表2・表3の結果と一致している。従って、これらのことから幼稚園教育実習、保育所実習にかかわらず、実習中の「健康管理」の成否は必ずしも実習の苦楽感に直結するものではない。

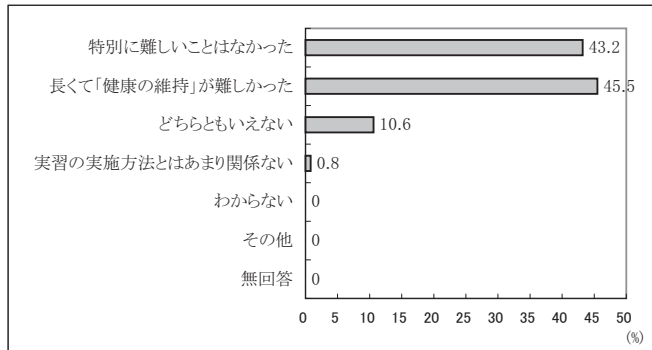


図13 4週間の幼稚園実習と健康管理

表9 連続して4週間の幼稚園実習の「健康管理」と幼稚園実習の苦楽感

		幼稚園実習の苦楽感					合計
		初めから最後まで楽しかった	後半になると楽しかった	後半になるとつらかった	初めから最後までつらかった	わからない・その他	
幼稚園実習中の「健康管理」	特別に「健康の維持」が難しくはなかった	29 (51.8%)	18 (32.1%)	2 (3.6%)	6 (10.7%)	1 (1.8%)	56 (100%)
	「健康の維持」が難しかった	19 (31.7%)	23 (38.3%)	8 (13.3%)	7 (11.7%)	3 (5.0%)	60 (100%)
	どちらもいえない	5 (35.7%)	6 (42.9%)	2 (14.3%)	1 (7.1%)	0 (0%)	14 (100%)
	「健康の維持」と実施期間とは関係ない	0 (0%)	1 (100.0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)

3-11 「連続して4週間の保育所実習」と「2週間ずつの保育所実習」とに関する自由記述の分析

問15の「連続して4週間の保育所実習」と「2週間ずつの保育所実習」とに関する自由記述欄に記入した学生は、141名中122名86.5%の高率に達し、「前回の第1次調査」(118名中97名82.2%)同様に高率であった。アンケート調査の自由記述の記入でこのような高率の回答を得ることは稀であり、学生の実習に対する関心の高さを物語っている。

「2週間ずつの保育所実習」を受けた学生は、「2週間ずつの保育所実習」について記述し(125件70.6%)、「連続して4週間の保育所実習」を受けた学生は、「連続して4週間の保育所実習」について記述する(15件71.4%)傾向が見られる。

表10は、「連続して4週間の保育所実習」に対する肯定的・否定的記述、「2週間ずつの保育所実習」に対する肯定的・否定的記述の件数を表にまとめたものである。自由記述であるから問9-2、問9-3の選択肢に対する回答よりもはるかに多様な記述内容が見られる。

今回の調査対象のほとんどの学生が、実際に「2週間ずつの保育所実習」と連続して4週間の幼稚園実習を経験している。「前回の第1次調査」の対象学生では、実際に「2週間ずつ」の実習を受けた者は皆無であり、「2週間ずつの保育所実習」についての自由記

本学の保育所実習の実施に関する第2次調査

述は「連続して4週間の保育所実習」を受けた経験を元にしての類推によるものであった。これに対し、今回の自由記述は、実際経験に裏打ちされた記述であり、とりわけ「2週間ずつの保育所実習」に対する記述内容に関しては、「前回の第1次調査」以上に内容が豊富である。

実際経験の裏打がある「前回の第1次調査」の「連続して4週間の保育所実習」に関する自由記述の肯定的記述で顕著なものは、「子どもとじっくり接することができ、仲良くなれ、理解を深めることができる」(26件25.5%)、「保育所に慣れ、仕事内容や保育の流れがよく分かる」(21件20.6%)の2つであった。逆に否定的記述で顕著なものは、「心身とも辛かった」(17件16.7%)であった。

実際経験の裏打がある今回調査の「2週間ずつの保育所実習」に対する自由記述の肯定的記述で顕著なものは、「1回目の実習課題を次に活かし、より多くの成果が得られる」(32件25.6%)、「子どもの成長を確認できる」(31件24.8%)、「自分の成長を確認できる」(18件14.4%)の3つである。逆に否定的な記述で顕著なものは、「子どもと仲良くなれない」(7件5.6%)、「2週間では中途半端で終わってしまう」(5件4.0%)である。恐らく、以上が実習実施期間の類型に対する学生の生の声であろう。

表10 自由記述の分析

内容		2週間ずつの実習生が記述した件数	連続して4週間の実習生が記述した件数	
連続して4週間	肯定	子どもと仲よくなれる	5	3
		子どもとじっくりと接することができ、理解が深まる	9	3
		やり遂げたという達成感と充実感がある	1	1
		余裕をもってじっくり順序だてて先生の対応などを学べる	0	1
		保育所に慣れ、仕事内容や保育の1日の流れがよくわかる	7	0
		多くのクラスに入り、年齢別の発達段階がよくわかる	2	0
		自信がもて、精神的に強くなる	0	2
		一度に実習が終わり、準備も一度で済むので楽だ	1	1
	長期の実習だと自分の適性がよくわかる	0	1	
	否定	心身ともにつらい	17	3
1回生で保育全般の知識がなく、長期の実習は不安である		2	0	
自分の成長を確認できない		1	0	
子どもの成長が確認できない		1	0	
合計		46	15	
2週間ずつの実習	肯定	1回の実習課題を次に活かし、より多くの成果を得られる	32	0
		自分の成長を確認できる	18	2
		子どもの1年後を見ることが出来る	31	0
		二度目なので実習園・先生になれて実習しやすい	8	0
		就職に有利	2	0
		心身ともに楽	7	0
		自分の成長をみとめてもらえる	7	0
	否定	子どもと仲よくなれない	7	0
		就職活動に不利(時期)	2	0
		2週間では園に慣れるのに精一杯	2	0
		2週間では中途半端で終わってしまう	5	0
		二度目なので先生の目が厳しくなりつらい	1	2
		一回目が辛かったで二度目はいきたくない	3	1
合計		125	5	
どちらともいえない		6	1	

4 まとめ

以上の考察から「2週間ずつの保育所実習」と「連続して4週間の保育所実習」について学生に対する意識調査から明らかになったことは以下のようにまとめられる。

- 1) 1回生時における保育所実習は概して学生にとって楽しいものである。しかし、実習の進行に伴う苦楽感の変化については、最終的に実習を楽しく感じたグループは実習の進行に伴い実習の楽しさが増大するのに対し、最終的に実習を辛く感じたグループは、実習中始終一貫して実習の辛さを感じている傾向が認められる。2回生時における保育所実習では1回生時の実習に比べて楽しいと感じる割合が増加する。
- 2) 実習中の健康管理については実施期間の類型にかかわらず困難であった場合と困難ではなかった場合とがほぼ同率である。実習中の健康管理の成否は必ずしも実習の苦楽感に直結するものではない。

本学の保育所実習の実施に関する第2次調査

- 3) 保育所実習の実施期間の種類にかかわらず、実習の充実度は、「子どもの年齢別発達段階の理解」「子どもの理解と親和」「今後の学習課題を発見」「保育士の仕事内容の理解」に関係している。
- 4) 保育所実習の実施期間の種類にかかわらず実習を実際に経験することにより、学生は実習中に自己の保育士としての資質・適性、保育士になる実現可能性を判断している。
- 5) 本調査の対象者は自分達が経験した「2週間ずつの保育所実習」を「連続して4週間の保育所実習」よりも支持している。その理由として、1回生時に気付いた課題を2回生時に取り組めるという「今後の実習課題の発見」をあげている。
- 6) 「連続して4週間の保育所実習」の選択理由は、「2週間ずつの保育所実習では実習に慣れた頃に終わってしまう」ことや「じっくり実習ができる」「1回生時に実習園と合わない」と2回生時の実習が辛くなる」「実習を4週間やり通して自信がつく」などである。

引用参考文献

- 佐野友恵・森本恵美子・浅野俊道「本学の保育所実習の実施に関する実態調査（Ⅰ）—連続して4週間の保育所実習の保育所実習の学習効果に関する学生の意識調査—」『大阪国際大学紀要 国際研究論叢』第19巻第1号 2005年
- 教育実習指導研究会編『教育実習指導資料』表現社、1969年
- 日本教育学会教師教育に関する研究会編『教師教育の課題』明治図書、1986年
- 荘司雅子監修『幼児教育実習の探求』創言社、1983年
- Dewey, J. *The Relation of Theory to Practice in Education*. The National Society for the Scientific Study of Education. 1904.
- The Sub-Committee of the Standards and Surveys Committee of American Association of Teachers Colleges. *School and Community Laboratory Experiences in Teacher Education*. American Association of Teachers Colleges. 1948.

保育所実習の実施方法についてのアンケート

本学ではこれまで、保育所実習を1回生時11月に「連続して4週間」で実施してきました。皆さんの学年から1回生後期と2回生後期との「2週間ずつに分けて4週間」で実施することになりました。一部の皆さんはこれまでどおり「連続して4週間」で実施しました。

幼稚園実習は、2回生時6月に「連続して4週間」で実施しました。

今後の実習の実施方法を検討する参考資料にいたしますので、「連続して4週間」の実習を経験した皆さんの貴重な意見をぜひお聞かせください。よろしくお願いたします。

回答方法 1 当てはまる番号に○印をつけてください。
2 回答の数はそれぞれの指示に従ってください。

1-1 あなたの保育所実習は、どのような実施方法でしたか。

- | | |
|-----------------|-------|
| (1) 2週間ずつ分けて4週間 | (125) |
| (2) 連続して4週間 | (16) |
| (3) 実習を受けていない。 | (0) |
| (4) その他 () | (0) |

1-2 【(1)を選んだ場合のみ回答してください。】

「2週間ずつ分けて4週間」の1回生時の保育所実習を楽しく受けることができましたか。
次の中から1つ選んで回答してください。

- | | |
|------------------------------|------|
| (1) 初めから最後まで楽しかった。 | (34) |
| (2) 初めはつらかったけれど、後半になると楽しかった。 | (53) |
| (3) 初めは楽しかったけれど、後半になるとつらかった。 | (9) |
| (4) 初めから最後までつらかった。 | (19) |
| (5) わからない。 | (4) |
| (6) その他 () | (6) |

1-3 【(1)を選んだ場合のみ回答してください。】

「2週間ずつ分けて4週間」の2回生時の保育所実習を楽しく受けることができましたか。
次の中から1つ選んで回答してください。

- | | |
|------------------------------|------|
| (1) 初めから最後まで楽しかった。 | (62) |
| (2) 初めはつらかったけれど、後半になると楽しかった。 | (31) |
| (3) 初めは楽しかったけれど、後半になるとつらかった。 | (6) |
| (4) 初めから最後までつらかった。 | (11) |
| (5) わからない。 | (7) |
| (6) その他 () | (2) |

本学の保育所実習の実施に関する第2次調査

1-4 【(2)を選んだ場合のみ回答してください。】

「連続して4週間」の保育所実習を楽しく受けることができましたか。次の中から1つ選んで回答してください。

- (1) 初めから最後まで楽しかった。 (4)
- (2) 初めはつらかったけれど、後半になると楽しかった。 (7)
- (3) 初めは楽しかったけれど、後半になるとつらかった。 (2)
- (4) 初めから最後までつらかった。 (3)
- (5) わからない。 (0)
- (6) その他 () (0)

2 保育所実習と実習中の「健康の維持」について、次の中から1つ選んで回答してください。

- (1) 特別に「健康の維持」が難しいということはない。 (63)
- (2) 「2週間ずつに分けて4週間」の実習だったが、2週間連続の実習は「健康の維持」が難しかった。 (47)
- (3) 「連続して4週間」の保育所実習は長くて「健康の維持」が難しかった。 (9)
- (4) どちらとも言えない。 (9)
- (5) 「健康の維持」と実習の実施方法とはあまり関係がないと思う。 (4)
- (6) わからない。 (5)
- (7) その他 () (0)

3 保育所実習と「学校の授業」について、次の中から1つ選んで回答してください。

- (1) 「2週間ずつに分けて4週間」の保育所実習にすれば、いろいろな授業を受けて2回生の後期にまた実習できるので「2週間ずつに分けて4週間」の方が実習は充実する。 (32)
- (2) 「連続して4週間」の保育所実習では1回生の時しか保育所の実習機会がないけれど、保育所のことがよくわかり、授業で話されていることがよくわかるようになったり、これから勉強しなければならないことがわかるようになるので、「連続して4週間」の方が実習は充実する。 (14)
- (3) どちらとも言えない。 (27)
- (4) 実習の実施方法と「学校の授業」とはあまり関係がないと思う。 (3)
- (5) わからない。 (3)
- (6) その他 () (2)

国際研究論叢

- 4 保育所実習と「子どもの年齢別発達段階」の理解について、次の中から1つ選んで回答してください。
- (1) 「2週間ずつに分けて4週間」の保育所実習は、1年後に一人一人の子どもの発達が観察できるので、「2週間ずつに分けて4週間」の保育所実習の方が「子どもの年齢別発達段階」がよく理解できる。 (106)
 - (2) 「連続して4週間」の保育所実習では各年齢のクラスで実習したり、各年齢の子どもと接する機会が十分あったので、「子どもの年齢別発達段階」がよく理解できる。 (26)
 - (3) どちらとも言えない (7)
 - (4) わからない (1)
 - (5) その他 () (1)
- 5 あなたは保育所実習で子どもを理解し、親しくなることができましたか。次の中から1つ選んで回答してください。
- (1) 子どもを十分に理解し親しくなれた。 (38)
 - (2) ある程度は理解し親しくなれた。 (98)
 - (3) あまり理解することはできなかった。 (4)
 - (4) 全く理解することができず親しくもなれなかった。 (0)
 - (5) どちらともいえない。 (0)
 - (6) その他 () (0)
- 6 あなたは保育所実習を受けて、自分のその後の学習課題を見つけることができましたか。次の中から1つ選んで回答してください。
- (1) もっと勉強しなければいけないと思うようになった。 (85)
 - (2) 自分がこれから何を勉強しなければならぬかが分かった。 (45)
 - (3) 実習前とあまり変わらなかった。 (4)
 - (4) わからない。 (6)
 - (5) その他 () (1)
- 7 あなたは保育所実習を受けて、保育士の仕事内容を理解しましたか。次の中から1つ選んで回答してください。
- (1) よく理解できた。 (51)
 - (2) 少しは理解できた。 (88)
 - (3) あまり理解できなかった。 (1)
 - (4) 実習前とあまり変わらなかった。 (0)
 - (5) わからない。 (1)
 - (6) その他 () (0)

本学の保育所実習の実施に関する第2次調査

8 あなたは保育所実習を受けて、自分が保育士になりたいと思いましたか。次の中から1つ選んで回答してください。

- (1) 保育士になりたいと思った。 (56)
- (2) 保育士になりたいと思ったけれど、自分には無理ではないかと思った。 (57)
- (3) 保育士にはなりたくないと思った。 (7)
- (4) 保育士には向かないということがわかった。 (11)
- (5) なんとも思わなかった。 (1)
- (6) わからない。 (0)
- (7) その他 () (6)

9-1 あなたがこれから保育所実習をまた受けるとしたら、「連続して4週間」の保育所実習と「2週間ずつに分けて4週間」の保育所実習のどちらを選びますか。次の中から1つ選んで回答してください。

- (1) 「連続して4週間」の実習を選ぶ。 (41)
- (2) 「2週間ずつに分けて4週間」の実習を選ぶ。 (82)
- (3) どちらでもいい。 (7)
- (4) わからない。 (8)
- (5) その他 () (5)

9-2 【(1)を選んだ場合のみ回答してください】

選んだ理由として当てはまるものすべてを次の中から回答してください。

- (1) 「連続して4週間」の実習はじっくり実習ができる。 (13)
- (2) 「2週間ずつに分けて4週間」の実習では子どもや実習園にやっとなれて、これからという時に終わってしまう。 (25)
- (3) なるべく早くから長く現場を経験した方が勉強になる。 (1)
- (4) 実習を4週間やりとおして自信がつく (8)
- (5) 1回生時の2週間で実習園と合わなかったときに、2回生時の実習が
つらくなる。 (13)
- (6) なんともなくそう思う。 (1)
- (7) その他 () (4)

9-3 【(2)を選んだ場合のみ回答してください】

選んだ理由として当てはまるものすべてを次の中から回答してください。

- (1) 1回生時の保育所実習で気づいた課題を2回生時の保育所実習で取り
組むことができる。 (62)
- (2) 「連続して4週間」は長すぎる。 (30)
- (3) 同じ保育所に1年後に実習に行くので、1年後の子どもの様子がわかる。 (55)
- (4) 同じ保育所に2回実習に行くので、2度目の実習がやりやすい。 (22)
- (5) 「2週間ずつに分けて4週間」の実習の方が健康の維持がしやすい。 (14)
- (6) なんともなくそう思う。 (3)
- (7) その他 () (3)

国際研究論叢

10 「連続して4週間」の幼稚園実習を受けましたか。

- (1) 受けた。 (132)
- (2) 受けていない。 (9)
- (3) その他 (0)

11 「連続して4週間」の幼稚園実習を楽しく受けることができましたか。次の中から1つ選んで回答してください。

- (1) 初めから最後まで楽しかった。 (54)
- (2) 初めはつらかったけれど、後半になると楽しかった。 (47)
- (3) 初めは楽しかったけれど、後半になるとつらかった。 (12)
- (4) 初めから最後までつらかった。 (14)
- (5) わからない。 (2)
- (6) その他 () (2)

12 幼稚園実習と実習中の「健康の維持」について、次の中から1つ選んで回答してください。

- (1) 特別に「健康の維持」が難しいということはない。 (57)
- (2) 「連続して4週間」の幼稚園実習は長くて「健康の維持」が難しかった。 (60)
- (3) どちらとも言えない。 (14)
- (4) 「健康の維持」と実習の実施方法とはあまり関係がないと思う。 (1)
- (5) わからない。 (0)
- (6) その他 () (0)

13 あなたの卒業後の進路について、次の中から1つ選んで回答してください。

- (1) 保育所 (67) (6) 一般企業 (11)
- (2) 幼稚園 (28) (7) 大学・専門学校などへの進学 (3)
- (3) 施設 (1) (8) 就職活動中 (25)
- (4) 音楽教室 (0) (9) 就職しない。 (3)
- (5) 社会体育施設 (0) (10) その他 () (3)

14 保育所実習を1回生後期と2回生後期の「2週間ずつに分けて4週間」実施する場合と、「連続して4週間」保育所実習を実施する場合についてのあなたの意見をお聞かせください。

本学の保育所実習の実施に関する第2次調査

- 15 幼稚園実習は今後、1回生後期と2回生後期の「2週間ずつに分けて4週間」で実施することになっています。このことについて、あなたの意見をお聞かせください。

** ご協力ありがとうございました。心より感謝いたします **